

音楽科授業に対する児童の意欲について

—学習指導要領を基としたアンケート調査から—

みやざき 美栄¹

要旨

初等教育・中等教育・高等教育の必要な教育現場で音楽科教育が為されているが、教育を受ける対象者が中等教育以上でも音楽の基本から指導しなければならない状態にあることが多い。筆者は、音楽科教育において学びの積み重ねが薄いと考え、音楽科教育のはじまりである小学生の音楽科授業への意欲を、学習指導要領の目標および内容を元に教員向けのアンケート用紙を作成し、調査した。歌唱・器楽・音楽づくりを含む表現、そして鑑賞、共通事項の内容別に詳細な項目に分け、それを中心とした質問用紙を独自に作成した。明らかになった項目別の児童の意欲の差を、児童が興味を示すジャンル、教科内における関連付けた学び、実施なしの項目、音楽科授業に必要な専門的知識と技術の視点から、音楽科授業を考察する。

キーワード 小学校音楽 音楽科授業 児童の意欲 学びの積み重ね 知識と技術

1. はじめに

平成29年告示の小学校学習指導要領音楽科の目標では、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する」ことを目指している。(1)「曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技術を身に付けるようにする。」(2)「音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。」(3)「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。」¹⁾と明示されている。これらの目標はいずれも、表現と鑑賞そして共通事項をバランス良く意欲的に学ぶことが、目標達成に繋がると考えられる。一般的な芸術分野の多くの場面でそうであるように、表現・知識・技術など、どこかに偏りがあると、ある一定ラインから個人の持つ能力を存分に発揮することが難しくなる。これは、学校教育においても例外ではないであろう。学びや意欲の偏りを修正することなく学年を重ねることにより「できない」に繋がってしまった時、結果的に教科嫌いを生んでしまう可能性を否定できない。音楽の学びは授業時間内での意欲が重要になってくるのではないか。

¹ 短期大学部こども学専攻

2. 問題と目的

筆者は保育士養成校に所属するが、入学の段階で楽譜を読めない学生が珍しくない。また、表現することに前向きではない場合もある。小学校・中学校の教育課程において音楽を必修として学んでいるにも関わらず、楽譜が読めない学生や表現活動に前向きではない学生においては、なんらかの原因があると考えられる。

音楽への興味や意欲の欠如、また学びの積み重ねの不足を要因の一部として考えられるが、音楽教育の始まりである小学校音楽科における児童の意欲についての先行研究は、指導方法そのものへの指摘や開発など目的別に様々な視点からなされており、報告されている。例えば、児童の表現意欲を高める音楽づくりに関する研究では、今後の課題のひとつとして「リコーダーの運指や音符の読みでつまずき、表現を工夫しようという意欲を失ってしまう児童が依然としている。児童の表現意欲を大切にしながらも、運指や音符の読みがスムーズにできるよう、表現するための基礎基本を粘り強く指導していく必要がある」[齋藤, 2011: 149-154]と指摘しており、表現と共通事項の関連付けた学びについての問題点が存在することが分かる。また、リコーダーによる表現の工夫に焦点を当てた小学校音楽科の器楽指導についての研究では、「技能習得において教師が身体的気づきを促す助言を行うことが重要であること、新しい音楽的な気づきや学習課題を生み出すために比較聴取活動が有効であることを指摘した。同時に、音楽教育的意味として耳をよく澄ませて「聴く」能力の育成、言葉だけでは伝えられない音の微妙な質の違いを聴き取り、思いをもって丁寧に表現しようとする意欲や態度の育成、そしてそれらの表現に伴う身体的能力の育成、多様な事象や感情を内包している音楽を自ら読み解く能力の育成、ということを指摘した。」[山中, 2018: 1-7]として、教科書の記載内容を実施するだけでなく、教員側の音楽科授業に必要な専門的知識と技術、また指導力が必要であることを指摘している。また、音楽づくりに関する研究では、「研究の結果、主に2点の成果を挙げる。1点目は、「ふしづくりの教育」を取り入れたことで、児童の表現の基礎的な能力が、全般的に高まったことである。2点目は、児童の音楽づくりへの意欲や主体的な学びに向かう姿勢の高まりが一部認められたことである。」[長澤, 2017: 103-110]として、音やリズムでふしを「つくる」作業が、能力や意欲の高まりに繋がり音楽教育に有効であることがわかる。

本研究の目的は、小学校音楽科教育全般の児童の意欲を、学習指導要領の各学年の目標及び内容をもとに項目ごとの調査をすることにより、意欲の高い項目及び低い傾向にある項目の現状を把握することである。調査結果と、前述した先行研究結果を踏まえ、現状において児童らがより興味を持ち音楽の学びを継続するための力を養うに必要なものを考察する。

3. 方法

3.1. 調査方法

本調査は、公立小学校教員対象に郵送調査法にて実施した。2019年8月に質問紙を発送し、同年10月末までに回答のあったものを調査対象とした。

3.2. 対象

3.2.1. 調査対象

三重県下全域の公立小学校 366 校とし、1 校につき 3 枚の質問紙を同封した。質問紙 3 枚の内訳は 1 年生担任、3 年生担任、音楽担当専科教員である。それぞれに対して返信用封筒を準備し、回答のあった 362 名を全体の分析対象とした。1 年生担任は 128 名、3 年生担任は 113 名、音楽担当専科教員 121 名であった。

3.2.2. 教科に関する分析対象

1・3 年生担任教員については、現在音楽科の授業を受け持っている教員のみを回答を依頼することを注意書きに添えたが、現在音楽科の授業の受け持ちがない教員からも経験をもとに多数の回答があったため、分析対象とした。音楽担当専科教員については、3・4 年生対象質問紙であると共に 3・4 年生の意欲調査であることを明示し、現在の担当学年が該当以外の場合は昨年までの経験を元に回答を依頼し、経験者を分析対象とした。この判断は、担任教員は音楽科授業を専科教員に預ける場合長期年に渡っている可能性が高いためであり、一方専科教員は依頼を受けて学年を担当するため、3・4 年生が今年度は担当外であっても近い過去に担当している可能性が高いと考えるためである。

1 年生担任 106 名、3 年生担任 66 名、音楽担当専科教員 118 名、合わせて 290 名を分析対象とした。

3.3. 調査内容

3.3.1. 質問項目と回答方法について

小学校学習指導要領に従い大きく表現と鑑賞、共通事項の 3 つに分け、さらに授業外での音楽への意欲を加えた。質問項目は、小学校学習指導要領の目標及び内容を集約し、独自に作成したものである。詳細は、結果の章にて全て明示するためこの章では省くが、表現においては歌唱・器楽を合わせて 4 項目、音楽作りとして 4 項目、鑑賞においては 3 項目に加えて興味を示すジャンルを調査した。共通事項として、聴き取りや感じ取りについては表現及び鑑賞の項目と重なるため、読譜の 3 項目に焦点を絞った。授業外での音楽への関わり方として、受動的または能動的な関わり方を問う 2 項目を追加した。音楽担当専科教員用については、授業外の項目はなし、とした。

教科に関する児童の意欲の回答においては、下記に示す通り「とても意欲的である」から「まったく意欲的でない」の 4 件法による単一回答とし、「実施していない」選択肢を追加した。

4…とても意欲的である 3…まあ意欲的である 2…あまり意欲的でない 1…まったく意欲的でない
0…実施していない

また、鑑賞における「興味を示すジャンル」の項目にかぎり複数回答可とし、該当がなければ無記入とした。

3.3.2. 質問文について

前述したように、質問紙は1年生担任用と3年生担任用及び音楽担当専科教員用で分けたが、小学校学習指導要領に合わせた内容とするため、各学年によって項目ごとに質問文を変えた。1年生担任用には1.2年生の目標及び内容に準ずる質問文、3年生担任用には3.4年生のそれに準ずる質問文とした。学習段階に合わせた目標が掲げられているため、それぞれ発展した質問文になっている。例えば、表現(歌唱)に関わる一つ目の質問では、1年生担任用「曲想を感じ取って表現を工夫して、歌ったり演奏する」を、3年生担任用「曲の特徴を捉えた表現を工夫して、歌ったり演奏する」(表1参照)のように、指導要領に合わせ対象学年に応じ作成した。

3.4. 倫理的配慮

本研究を行うに際し、音楽を担当する公立小学校教員対象者に調査の意義と人権的配慮に関して十分に文書による説明を行った上で同意を得た。質問紙調査の実施にあたっては、個人情報の保護が確保され、提出を拒否できること、拒否しても不利益を受けることがないことを明記した。回収については、質問紙は封をした上で郵送させた。なお、解析に用いたデータは、入手した時点で個人を識別できる情報のすべてが取り除かれ、新たな番号を付して、連結不可能にして匿名化した。

4. 結果

4.1. 児童の意欲の平均値・標準偏差について

各項目における児童の意欲の平均値と標準偏差を図1に示した。各項目の総計の平均は、平均値が2.56、標準偏差が0.83であった。授業外での意欲が3.0以上と高かった。授業内では、表現における歌唱・器楽の意欲は全て平均以上で高かったが、音楽づくりにおいて1年生の「音遊びをする」項目以外は平均以下であった。標準偏差でも音楽づくりのみ1以上を示し、ばらつきがある。

表1 児童の意欲の平均値と標準偏差

		平均値	標準偏差			平均値	標準偏差		
表現	歌唱・器楽	1年生担任用	2.70	0.85	鑑賞	1年生担任用	2.75	0.76	
		3年生担任用	2.78	0.64		3年生担任用	2.79	0.76	
		音楽担当専科教員	2.79	0.66		音楽担当専科教員	2.89	0.68	
		総計	2.75	0.73		総計	2.82	0.73	
	音楽づくり	自分の歌声や発音に気をつけて歌う(1)/呼吸や発音に気をつけて、自然で無理のない歌い方で歌う(3)	1年生担任用	2.86		0.67	1年生担任用	2.70	0.85
		3年生担任用	2.91	0.68		3年生担任用	2.78	0.84	
		音楽担当専科教員	2.91	0.71		音楽担当専科教員	2.79	0.66	
		総計	2.89	0.69		総計	2.75	0.73	
		伴奏や互いの音を聴いて、合わせて歌ったり演奏する(1)/伴奏や互いの音、副次的な旋律を聴いて、合わせて歌ったり演奏する(3)	1年生担任用	2.82		0.56	1年生担任用	1.94	0.95
		3年生担任用	2.80	0.57		3年生担任用	2.50	0.61	
音楽担当専科教員	2.74	0.55	音楽担当専科教員	2.50	0.73				
総計	2.78	0.56	総計	2.29	0.84				
共通事項	音色に気をつけて演奏する(1)/音色や響きに気をつけて演奏する(3)	1年生担任用	2.56	0.78	教科書に載っているリズム譜を理解している(1)/教科書に載っているハ長調の楽譜を理解している(3)	1年生担任用	2.60	0.78	
	3年生担任用	2.80	0.61	3年生担任用	2.32	0.86			
	音楽担当専科教員	2.82	0.66	音楽担当専科教員	2.43	0.74			
	総計	2.72	0.71	総計	2.47	0.79			
	音遊びをする(リズム遊び・旋律遊びなど)(1)/即興的に表現すること(3)	1年生担任用	3.41	0.60	教科書に載っている音符(音の高さ)や休符の長さを理解している	1年生担任用	2.25	0.89	
	3年生担任用	2.20	1.06	3年生担任用	2.63	0.74			
	音楽担当専科教員	2.36	0.94	音楽担当専科教員	2.58	0.71			
	総計	2.71	1.01	総計	2.47	0.80			
	身の回りの音への気付きがある(1)/音の響きやそれらの組み合わせ、フレーズのつなげ方や重ね方の特徴の良さや面白さへの気付き(3)	1年生担任用	2.72	0.96	教科書に載っている音楽の記号や用語の理解している	1年生担任用	2.02	1.07	
	3年生担任用	2.29	1.01	3年生担任用	2.49	0.70			
音楽担当専科教員	2.37	0.94	音楽担当専科教員	2.51	0.61				
総計	2.48	0.98	総計	2.33	0.86				
授業外	即興的に、音を選んだりつなげたりする活動を楽しむ(1)/即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する(3)	1年生担任用	2.32	1.16	音楽の授業外で音楽を活用した際、児童が積極的に参加したり興味を示したり、楽しむ姿がある	1年生担任用	3.24	0.72	
	3年生担任用	2.22	0.96	3年生担任用	3.26	0.59			
	音楽担当専科教員	2.27	0.96	音楽担当専科教員	3.25	0.67			
	総計	2.28	1.04	総計	3.25	0.67			
	簡単な音楽を作る(1)/音楽の仕組みを用いて、音楽を作る(3)	1年生担任用	1.92	1.20	児童が自発的に音楽の授業外で、音・音楽そのものを楽しむ姿がある(うたう、リズムであそぶ、音楽に合わせて踊る等)	1年生担任用	3.24	0.65	
	3年生担任用	2.00	1.07	3年生担任用	3.14	0.65			
	音楽担当専科教員	2.16	0.93	音楽担当専科教員	3.20	0.65			
	総計	2.04	1.07	総計	3.20	0.65			
				総計の平均	2.56	0.83			

4.2. 表現の児童の意欲について

歌唱・器楽の4項目(表2)において、1年生の「音色に気を付けて演奏する」が63.2% (とても意欲的である、まあ意欲的であるの和)であった以外は、7割以上の教員が「意欲的である」と評価した。音楽づくりの4項目(表3)においては、1年生の「音遊びをする」の項目が9割以上、同じく1年生の「身の回りの音への気付きがある」の項目が7割の教員が意欲的であると評価したが、他の項目においては意欲的でないと感じる教員の割合が増えている。特に「音楽を作る」項目においては、意欲的でない(あまり意欲的でない35.2%、41.5%、42.1%、まったく意欲的でない5.7%、7.7%、10.5%)が、意欲的である(まあ意欲的である32.4%、32.3%、36.8%、とても意欲的である4.8%、3.1%、2.6%)を上回る結果となった。また、実施なしの回答について、歌唱・器楽の項目ではほぼ0%であったが、音楽づくりの項目で存在する。

表2 表現の歌唱・器楽における意欲の割合

質問	担当		とても意欲的である	まあ意欲的である	あまり意欲的でない	まったく意欲的でない	実施なし	総計
曲想を感じ取って表現を工夫して、歌ったり演奏する(1)	1年生担任	人数	19	68	18	0	0	105
		割合	18.1%	64.8%	17.1%	0.0%	0.0%	100.0%
曲の特徴を捉えた表現を工夫して、歌ったり演奏する(3)	3年生担任	人数	13	43	8	1	0	65
		割合	20.0%	66.2%	12.3%	1.5%	0.0%	100.0%
	専科教員	人数	16	77	21	2	0	116
		割合	13.8%	66.4%	18.1%	1.7%	0.0%	100.0%
自分の歌声や発音に気を付けて歌う(1)	1年生担任	人数	9	74	22	1	0	106
		割合	8.5%	69.8%	20.8%	0.9%	0.0%	100.0%
呼吸や発音に気を付けて、自然で無理の無い歌い方で歌う(3)	3年生担任	人数	7	46	11	1	0	65
		割合	10.8%	70.8%	16.9%	1.5%	0.0%	100.0%
	専科教員	人数	13	80	24	0	0	117
		割合	11.1%	68.4%	20.5%	0.0%	0.0%	100.0%
伴奏や互いの音を聴いて、合わせて歌ったり演奏する(1)	1年生担任	人数	12	66	26	1	1	106
		割合	11.3%	62.3%	24.5%	0.9%	0.9%	100.0%
伴奏や互いの音、副次的な旋律を聴いて、合わせて歌ったり演奏する(3)	3年生担任	人数	8	38	17	2	0	65
		割合	12.3%	58.5%	26.2%	3.1%	0.0%	100.0%
	専科教員	人数	12	67	34	3	1	117
		割合	10.3%	57.3%	29.1%	2.6%	0.9%	100.0%

音色に気をつけて演奏する(1)	1年生担任	人数	4	63	30	6	3	106
		割合	3.8%	59.4%	28.3%	5.7%	2.8%	100.0%
音色や響きに気をつけて演奏する(3)	3年生担任	人数	5	44	14	2	0	65
		割合	7.7%	67.7%	21.5%	3.1%	0.0%	100.0%
	専科教員	人数	15	68	32	2	0	117
		割合	12.8%	58.1%	27.4%	1.7%	0.0%	100.0%

表3 表現の音楽づくりにおける意欲の割合

質問	担当		とても意欲的である	まあ意欲的である	あまり意欲的でない	まったく意欲的でない	実施なし	総計
音遊びをする(リズム遊び・旋律遊びなど)(1)	1年生担任	人数	49	51	6	0	0	106
		割合	46.2%	48.1%	5.7%	0.0%	0.0%	100.0%
即興的に表現すること(3)	3年生担任	人数	2	29	22	2	9	64
		割合	3.1%	45.3%	34.4%	3.1%	14.1%	100.0%
	専科教員	人数	8	48	46	6	8	116
		割合	6.9%	41.4%	39.7%	5.2%	6.9%	100.0%
身の回りの音への気付きがある(1)	1年生担任	人数	16	59	23	1	7	106
		割合	15.1%	55.7%	21.7%	0.9%	6.6%	100.0%
音の響きやそれらの組み合わせ、フレーズのつなげ方や重ね方の特徴の良さや面白さへの気付き(3)	3年生担任	人数	2	31	20	3	7	63
		割合	3.2%	49.2%	31.7%	4.8%	11.1%	100.0%
	専科教員	人数	7	52	40	9	7	115
		割合	6.1%	45.2%	34.8%	7.8%	6.1%	100.0%
即興的に、音を選んだりつなげたりする活動を楽しむ(1)	1年生担任	人数	8	53	25	3	16	105
		割合	7.6%	50.5%	23.8%	2.9%	15.2%	100.0%
即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する(3)	3年生担任	人数	1	28	26	2	7	64
		割合	1.6%	43.8%	40.6%	3.1%	10.9%	100.0%
	専科教員	人数	5	49	43	10	9	116
		割合	4.3%	42.2%	37.1%	8.6%	7.8%	100.0%
簡単な音楽を作る(1)	1年生担任	人数	5	34	37	6	23	105
		割合	4.8%	32.4%	35.2%	5.7%	21.9%	100.0%
音楽の仕組みを用いて、音楽を作る(3)	3年生担任	人数	2	21	27	5	10	65
		割合	3.1%	32.3%	41.5%	7.7%	15.4%	100.0%
	専科教員	人数	3	42	48	12	9	114
		割合	2.6%	36.8%	42.1%	10.5%	7.9%	100.0%

4.3. 鑑賞について

4.3.1. 鑑賞の児童の意欲について

表4が示す通り、「鑑賞教材への知識・関心興味がある」及び「曲や演奏の楽しさを見出し、味わって聴く」の2項目については全ての担当において、7割前後の児童の意欲が認められたが、「音楽の気付き」に関する項目において、特に1年生において6割以上が、意欲的でない（あまり意欲的でない 48.6%、まったく意欲的でない 12.4%）の結果に加え、11.4%が実施なしであった。

表4 鑑賞における意欲の割合

質問	担当		とても意欲的である	まあ意欲的である	あまり意欲的でない	まったく意欲的でない	実施なし	総計	
鑑賞	鑑賞教材への知識・関心興味がある	1年生担任	人数	11	65	26	1	3	106
			割合	10.4%	61.3%	24.5%	0.9%	2.8%	100.0%
		3年生担任	人数	9	35	14	4	0	62
			割合	14.5%	56.5%	22.6%	6.5%	0.0%	100.0%
		専科教員	人数	18	68	24	3	0	113
			割合	15.9%	60.2%	21.2%	2.7%	0.0%	100.0%
	曲や演奏の楽しさを見出し、味わって聴く	1年生担任	人数	12	60	29	0	5	106
			割合	11.3%	56.6%	27.4%	0.0%	4.7%	100.0%
		3年生担任	人数	6	41	16	2	0	65
			割合	9.2%	63.1%	24.6%	3.1%	0.0%	100.0%
		専科教員	人数	14	66	35	2	0	117
			割合	12.0%	56.4%	29.9%	1.7%	0.0%	100.0%
曲想と音楽の構造との関わりについて気付く(1)	1年生担任	人数	2	27	51	13	12	105	
		割合	1.9%	25.7%	48.6%	12.4%	11.4%	100.0%	
曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて気付く(3)	3年生担任	人数	2	30	30	2	0	64	
		割合	3.1%	46.9%	46.9%	3.1%	0.0%	100.0%	
	専科教員	人数	5	58	44	8	1	116	
		割合	4.3%	50.0%	37.9%	6.9%	0.9%	100.0%	

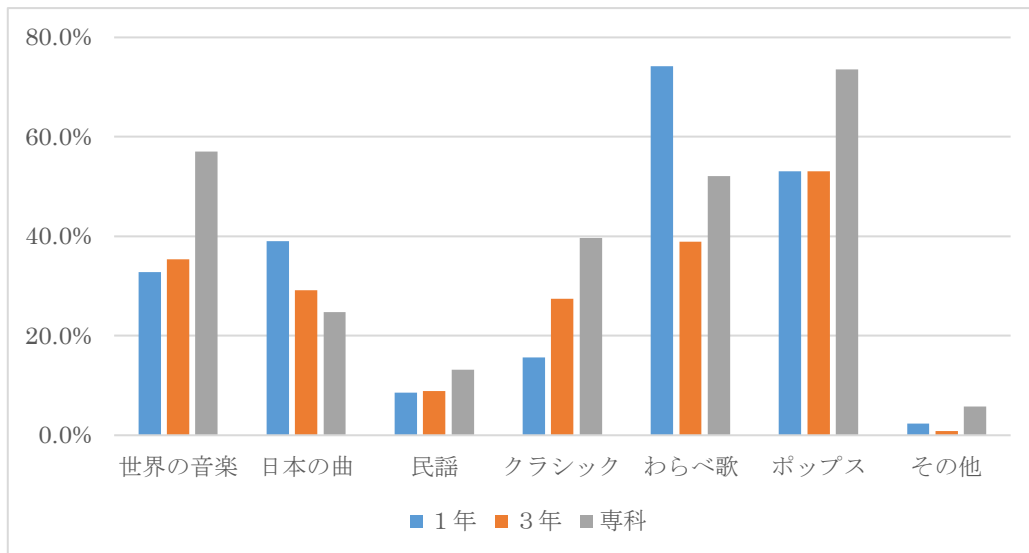


図1 興味を示すジャンル

4.3.2. 興味を示すジャンルについて

1年生がわらべ歌に興味を示すと8割近くの教員が回答した(図1)。「日本の曲」と「わらべ歌」以外は、専科教員が受け持つ児童が、担任教員が受け持つ児童より各ジャンルで、より興味を示す結果が出た。

4.4. 共通事項(読譜)における児童の意欲について

表5に示す通り、「教科書に載っている楽譜を理解している」の項目において、1年生は6割以上の児童が意欲的である(とても意欲的である6.9%、まあ意欲的である54.9%)が、3年生になると担任教員及び専科教員が受け持つ児童の半数以上が意欲的でない(まったく意欲的でない6.2%、7.6%、あまり意欲的でない47.7%、44.1%)の回答であった。実施なしの回答について、専科教員では3項目において1%未満であったが、1年生担任教員では各項目において2.9%、3.8%、14.3%の割合で存在した。

表5 共通事項（読譜）における意欲の割合

質問	担当		とても意欲的である	まあ意欲的である	あまり意欲的でない	まったく意欲的でない	実施なし	総計
教科書に載っているリズム譜を理解している(1)	1年生担任	人数	7	56	33	3	3	102
		割合	6.9%	54.9%	32.4%	2.9%	2.9%	100.0%
教科書に載っているハ長調の楽譜を理解している(3)	3年生担任	人数	4	23	31	4	3	65
		割合	6.2%	35.4%	47.7%	6.2%	4.6%	100.0%
	専科教員	人数	6	50	52	9	1	118
		割合	5.1%	42.4%	44.1%	7.6%	0.8%	100.0%
教科書に載っている音符(音の高さ)や休符の長さを理解している	1年生担任	人数	7	32	49	12	4	104
		割合	6.7%	30.8%	47.1%	11.5%	3.8%	100.0%
	3年生担任	人数	7	30	25	3	0	65
		割合	10.8%	46.2%	38.5%	4.6%	0.0%	100.0%
	専科教員	人数	8	59	46	4	1	118
		割合	6.8%	50.0%	39.0%	3.4%	0.8%	100.0%
教科書に載っている音楽の記号や用語を理解している	1年生担任	人数	5	31	45	9	15	105
		割合	4.8%	29.5%	42.9%	8.6%	14.3%	100.0%
	3年生担任	人数	6	22	35	2	0	65
		割合	9.2%	33.8%	53.8%	3.1%	0.0%	100.0%
	専科教員	人数	3	57	52	4	0	116
		割合	2.6%	49.1%	44.8%	3.4%	0.0%	100.0%

4.5. 授業外での音楽活動における児童の意欲について

表8に示し通り実施なしと回答した教員は1年生担任、3年生担任共に1名であり、さらに意欲的であるの回答が2項目共に9割前後を示した。

表6 授業外での音楽活動への意欲の割合

質問	担当		とても意欲的である	まあ意欲的である	あまり意欲的でない	まったく意欲的でない	実施なし	総計	
授業外	音楽の授業外で音楽を活用した際、児童が積極的に参加したり興味を示したり、楽しむ姿がある	1年生担任	人数	38	58	6	2	1	105
			割合	36.2%	55.2%	5.7%	1.9%	1.0%	100.0%
		3年生担任	人数	22	39	5	0	0	66
			割合	33.3%	59.1%	7.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	児童(先生)が自発的に音楽の授業外で、音・音楽そのものを楽しむ姿がある(うたう、リズムであそぶ、音楽に合わせて踊る等)	1年生担任	人数	37	57	10	1	0	105
			割合	35.2%	54.3%	9.5%	1.0%	0.0%	100.0%
3年生担任		人数	16	45	4	0	1	66	
		割合	24.2%	68.2%	6.1%	0.0%	1.5%	100.0%	

5. 考察

5.1 児童の意欲の傾向

児童の意欲の平均値と標準偏差(表1)の各項目の平均値を基準に、それぞれの割合(表2～表6)から考察する。

表現の児童の意欲について、歌唱・器楽に関わる4項目は学年を問わず平均以上のポイントであったのに対して、音楽づくりの4項目が1年生担任が受け持つ1年生(以下、1年生と示す)の「音遊び」以外が平均以下となったのは偶然ではないであろう。また、鑑賞において、「関心興味」や「聴く」項目においては平均以上、「気付き」が平均以下であったが、「興味関心」に合わせて「気付き」の意欲を高めたいところである。共通事項(読譜)においては、平均値2.02～2.63と決して高くなく、割合で見ても半数程度または半数以上が意欲的でないことがわかる。

「歌う」「聴く」「音遊び」といった、単純に音楽を楽しんだり感じたりすることに重きをおく項目は意欲があり、「知識」や「学び」を必要とする先の音楽の楽しみや感じ方を問う項目において意欲が伸びない傾向にある。音楽科授業は「楽しむ」ことが大切であるが、理解することや技能の上達など、学びの先の楽しみを感じ取る能力を身に付けることにより、音楽的な見方・考え方が可能となり、感性がさらに育まれるであろう。その先に音楽の深みある楽しみがあり、低い傾向にあった項目の意欲を上昇させることができれば、音楽科全体のさらなる意欲向上につながると考える。

一方、授業外においては平均値が3.0以上と非常に高く、割合的にも意欲的でないと回答したのはほぼ1割以下であり、標準的にこどもは音楽的要素に興味があり好きと感じ、生活の中で音楽への意欲がみられると考えられる。

5.2 鑑賞における児童が興味を示すジャンル

図1から、1年生の「わらべ歌」の意欲が際立つが、幼小連携を感じられる。日本語を元に音楽が付随した遊びを伴う民謡の一種である「わらべうた」をもとに「民謡」そのものへ連携し、日本音楽の美しさを低学年から感じられると良いであろう。決して別物ではな

く、連携させることが重要である。民謡はおよそ 58,000 曲存在するが、そこには地域性や日本音楽ならではの美しさが存在する。

「日本の曲」、1 年生「わらべ歌」を除いて、音楽担当専科教員が受け持つ 3 年生（以下、専科担当と示す）の意欲がすべてのジャンルにおいて 1 年生及び 3 年生担任が受け持つ 3 年生（以下、3 年生と示す）を上回ったが、これも偶然ではないと考える。鑑賞教材には、教員に知識が備わっていなければ、一から授業に向けて研究が必要になってくるであろう。担任の先生方の場合、多忙なクラス運営の中で鑑賞に向けて準備をするのは大変な作業であると容易に想像ができる。専科教員に時間があるというのではなく、小規模校でなければ複数クラスの繰り返しであったり、または昨年度の授業内容の見直しであったりという側面から、年数を重ねるに連れて指導の広がりや授業構成の工夫が為されやすく、児童の興味を引き出しやすかったと考える。

5.3. 教科内における関連付けた学びについて

学習指導要領は表現及び鑑賞に分けて記され、そして共通事項を明記されており、指導計画の作成と内容の取扱いでは、「適宜、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るように」と記載されており、関連付けた学びが必要である。「音楽づくり」の項目や「共通事項」の項目の意欲が他に比べて低い傾向にあったのは関連付けた学びが十分でない可能性の一つとして考えられる。例えば歌唱・器楽表現するにあたって、鑑賞で聴くことから得たりズム的またはメロディー的な感覚、学びで得た音楽の構造的な知識により、単純に音を出して楽しむだけではなく、演奏するフレーズが形づくる要素やそれが生み出す面白さや美しさを感じ取り、他との関わりを楽しむことができる。また、その瞬間に生まれる音楽の美しさ、音楽の働きがなぜ生まれるのかを、音符や休符、記号や用語などの理解と共に感じる事が出来れば、工夫され表現はさらに深まるであろう。意欲が高い歌唱・器楽表現から今回の調査で顕著となった音楽づくり表現への発展も期待できる。鑑賞する際においても同様であることは明らかである。継続的な関連付けた学びが、音楽本来の面白さに気付くことにつながり、豊かな情操を培うことができるであろう。

5.4 実施なしの項目について

実施なしと回答のあった項目があり、これについて考える（表 1～表 6）。1 割を超えた項目を抜き出すと、3 年生「即興的に表現すること」（表 3）、3 年生「音の響きやそれらの組み合わせ、フレーズのつなげ方や重ね方の特徴の良さや面白さへの気付き」（表 3）、1 年生「即興的に、音を選んだりつなげたりする活動を楽しむ」及び同項目 3 年生「即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する」（表 3）、1 年生「簡単な音楽を作る」及び同項目 3 年生「音楽の仕組みを用いて音楽を作る」（表 3）、1 年生「曲想と音楽の構造との関わりについて気付く」（表 4）、1 年生「教科書に載っている音楽の記号や用語を理解している」（表 5）の 6 項目であった。一方で、専科担当については、1 割を超えて実施なしの項目はなかった。

これらの 6 項目は、特に専門的な知識が必要な項目に限られていると考える。音楽づくりに関するいくつかの項目は、指導書があっても「即興的な…」などを求められており、

児童の意欲を引き出すには、ICT 技術を駆使するにしても一定の知識を持って臨機応変に児童に対応する知識やアイデアを必要とされるであろう。

多くの教員は各々に専門領域があり、担任教員に音楽を専門とされる方は少数である。これは専科教員においても同様で、今回の調査で実施なしと答えた教員は少数であったが、音楽担当教員が音楽専門とは限らない。音楽科の教科運営は、教員の弛まぬ努力と研究の上にあると想定でき、またそれが必要である。専門的知識や技術を求められる項目を、どのように授業の中で実施していくか。これは目標に合わせてバランス良く学びを展開するために、また児童の意欲そのものに直結する音楽科授業における重大な課題であると考えられる。

実施なしであると、明らかに学びの積み重ねが保証されなくなる。どの教科であっても、学年単位で完結する教科はなく、学びの積み重ねを必要とされ、成長段階に応じて学習指導要領がそれを表している。実施せず、進級することが「わからない」を生んでしまう可能性を否定できない。学習指導要領の目標を達成するには、実施して、学びを積み重ねることが大切である。

5.5. 音楽科授業に必要な専門的知識と技術

音楽科は専門的知識と技術を必要とされる教科であると前述したが、具体的に児童の意欲を引き出すためにはどのような知識と技術が必要であるか検討する。

一つ目に楽器の演奏技術である。歌唱・器楽における表現活動において、伴奏に CD や ICT 機器を用いる方法もあるが、児童にとっては機械から流れる音楽は日常である。先生の演奏している姿を間近で感じることも表現技術の興味への一歩であり、興味を広げたいところである。また、例えば児童が鍵盤ハーモニカやリコーダーの練習段階にある場合、仕上がりのテンポで演奏できるまで機器による伴奏がない状態が続いたり、逆に最初から CD などを用いて無理に仕上がりのテンポで練習し続けるのは反って遠回りとなり、音楽嫌いを誘発し兼ねない。児童の学びの段階に合わせて、臨機応変にテンポ調整や音楽的表現のある伴奏や弾き歌いを実施したい。二つ目にソルフェージュ能力である。これは合唱などの際に、教員がまずハーモニーを聞き分け、児童の「気付き」を引き出すために必要となる能力である。合奏では複数の楽器が混ざり合うためさらに複雑になるが、どこのパートがどの様に重なり合って音楽の面白みが生まれているのかを、児童が「音楽の構造に気付く」ために誘導する指導が、結果的に「表現の工夫」にもつながると考える。この能力は、音楽の授業内で様々な場面で指導の助けとなる。今回の調査では触れなかったが、内容の取扱いで明示されている、「移動ド唱」を用いる際にも有効である。三つ目に楽譜制作の技術を挙げる。これは、図や絵によるものから五線譜を用いても良いとされるが、音楽づくりの活動の際に必要なに応じて作品を記録させることを内容の取扱いで明示されている。児童に活動させるには、教員の誘導が不可欠であろう。最後、四つ目に音楽に関わる知識を挙げる。様々な記号の説明や内容は、教科書や指導書に小学校音楽科授業に必要とされるものは十分な記載がされている。また鑑賞やその他歌唱教材などでも、DVD など安価ではないが副教材として準備されている出版社が多く、授業の運営には問題ないように感じられる。しかし、前述した「関連付けた学び」を実践し、バランスある授業を運営してい

くには、指導書を元に児童の実態を把握しながら、項目が異なる複数の指導内容を繋げられる知識と技術が必要であると考ええる。

6. 結論

今回の調査から、音楽科授業における児童の意欲について、項目によって差があることが分かった。「知識」や「学び」を必要とする先の音楽の楽しみや感じ方を問う項目において、意欲が伸びない傾向にあることが明らかとなった。その意欲を引き出すためには、関連付けた学び、学びの積み重ね、また教員の専門的な知識と技術などが影響していると、先行研究と今回の調査結果から考察することができた。教員自身が音楽の仕組みに面白みを感じ、興味を持って音楽と児童に向き合う必要があるため、一部で取り入れられているように音楽専科教員導入の実施検討も必要ではないかと考える。児童の意欲をより高められるよう、また、より良い音楽科授業への一案を提案できるよう、今後も研究を重ねたい。

7. 謝辞

本調査に際し、アンケートにご協力いただきました三重県内小学校の先生方、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

文部科学省 『小学校習指導要領』平成 29 年 3 月

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』平成 29 年 7 月

長澤 希 (2017) : 「ふしづくりの教育」を取り入れた音楽科の授業開発 : 第 2 学年における授業実践を通して, 広島大学附属三原学校園研究紀要, 7 巻, 103-110.

齋藤 恵美 (2011) : 児童の表現意欲を高める音楽づくりを目指して : 3 年生「まつりの音楽をつくろう」の実践を通して, 上越教育大学学校教育実践研究センター教育実践研究, 21 巻, 149-154.

山中和佳子 (2018) : リコーダーによる表現の工夫に焦点を当てた小学校音楽科の器楽指導, 福岡教育大学紀要. 第六分冊, 教育実践研究編, 67 巻, 1-7

Children's Motivation for Music Classes
—Based on a questionnaire survey
in accordance with the government curriculum guidelines—

Mie MIYAZAKI

Summary

Music education is conducted as necessary in primary, secondary and higher education curriculum. However, higher education students often need to be taught from basics of music. The author thought that there was little accumulation of learning in music education. Based on the goals and content of the government curriculum guidelines, the author developed a questionnaire for teachers and surveyed elementary school students' motivation for music education. The questionnaire consisted of questions including expressions (songs, musical instruments, music production), appreciation, and common contents of music education. From the viewpoint of mutual learning, items that are not practiced, expertise and techniques required for music education, and genres children are interested in, we will analyze differences in children's motivation by item of music education and consider music classes.

Key word Elementary School music Music Classes Children's Motivation
Accumulation of Learning Expertise and Techniques